

研修テーマ

きいて かんじて つながろう

～思いや意図をもち、いきいきと表現する子どもの育成～

- 1 日 時 平成28年6月13日(月) 10:50～16:30
6月14日(火) 8:40～16:00
- 2 会 場 倉吉市立西郷小学校 倉吉市立河北小学校
- 3 講 師 むさし野ジュニア合唱団“風” 指導者 前田 美子 先生

4 研修内容

今年も、全国各地でご活躍の前田美子先生のもとで研修を深めた。

西郷小学校では、直接5・6年生児童の歌唱指導をしていただきながら研修した。児童の心をほぐし、一人一人の思いを大切にしながら歌声をつくることを学んだ。

合唱指導で特に大切にしたいことは、次の3つである。

1つ目は、身体全体を使って表現することである。楽曲「ふたりはいつも」の主人公が蛙のため、できるだけ人と違う動きになるような蛙の動作をさせたり、目線や口の開け方を伝える言葉(ため息一つ、上を見上げてから目線を下げる等)を工夫したりすることで子どもの心を開放していく。2つ目に、歌声づくりでは鍵盤楽器を使って正確に音取りをすることである。息継ぎをするとところをきちんとそろえ、曲にめりはりをつけていきたい。3つ目は、歌詞や楽譜の示し方である。子どもが思い描いた世界を大切にするためにも、挿絵を入れず、言葉や音符のみにすることである。

河北小学校では、授業参観や歌唱指導を通して授業で大切にしたいことを学んだ。授業者が、[共通事項]を押さえよう、使おうと意識しすぎている。[共通事項]に示された言葉のままではなく、子どもの言葉で言えることが大切である。[共通事項]の言葉を使うことにこだわりすぎず、授業者の個性が生きるような授業をめざしたい。



また、音楽集会では、鍵盤ハーモニカと歌声の音量バランスや発表する楽曲を一層効果的に聴かせる工夫について助言を受けた。

この研修を通して、子どもに音楽をどのように楽しませるか、どのようにかかわらせるのかを考えて授業をつくったり、言葉かけを工夫したりすることを具体例とともに学ぶことができた。そして、教師も子どもといっしょに楽しむ音楽活動を取り入れ、音楽そのものを楽しみながら学習することが大切である。